

平成28年度第5回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 平成28年9月27日（火） 午前10時30分から12時15分まで
- 場 所： 京都市立病院 本館5階会議室
- 出席者： 理事長 森本 泰介
理 事 森 一樹, 黒田 啓史, 桑原 安江, 大森 憲, 位高 光司, 山本 壯太,
能見 伸八郎, 木村 晴恵
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則
事務局 阿部経営企画局次長, 長谷川担当部長, 大島業務推進担当副部長,
高橋経営企画課長, 竹内職員担当課長, 澤井管理担当課長,
北川京北病院事務長

1 開会

2 報告等

(1) 平成27年度に係る業務実績評価について

資料1に基づき阿部経営企画局次長から説明

- 市立病院整備運営事業におけるPFI手法の活用の評価について、26年度のA評価からB評価になっているのは、何故か。
 - 26年度のA評価は、病院整備事業が完了したことを評価したもの。整備は26年度に完了し、27年度は運営事業において、課題が残っていることを評価された。
- 安定した資金収支、資産の有効活用の面において、B評価となっているが、資金繰りは。
 - 赤字決算となったため、B評価としている。資金繰りについては、今後続けて赤字計上することがあれば、考えていかなければならない。
- 市民に対する安心・安全で質の高い医療を提供するための取組に関する事項について、26年度のB評価からA評価へ変わっている項目が多いことは良いことなので、今後もA評価となるよう続けて取り組んでもらいたい。
- 26年度と比較し、全体的に評価が下がっているが、26年度の評価が甘かったということか。
 - 26年度の評価は、第一期中期計画の最終年度であり、集大成として目標を達成してきたこと、黒字決算であったことなどが寄与し、A評価が多い結果となっている。27年度の評価は、第二期中期計画の初年度で、これから伸ばしていく事項などを踏まえB評価が増えている。
また、A評価であっても、27年度の実績については、我々は厳しい認識を持っているので、今後も慢心せず取り組んでまいりたい。

(2) 重症度、医療・看護必要度について

資料2に基づき森本理事長から説明

- 重症度、医療・看護必要度について、高く推移していることは評価できる。どの項目の患者が一番多いか。また、手術件数が伸びている診療科はどこか。
 - A項目かつB項目で評価されている患者が最も多い。がん患者の増加とともに、A項目の割合が増えている。
 - 外科、整形外科、耳鼻咽喉科での手術件数が増えている。また、必要度に寄与する部分は小さいが、眼科の手術が多い。今後、安定した手術件数を確保するためにも、救急からの患者をしっかりと受けていく必要がある。なお、7月からは脳神経外科が刷新されたこともあり、C

項目の件数が少し伸びてきている。

- 脳神経外科医は、どこの大学からの派遣か。
 - 滋賀医科大学から2名派遣されている。
 - なお、脳神経外科の手術件数は、6月までは月に2件ほどであったが、7月は7件、8月は13件となっている。

(3) 経営状況月次（7・8月）報告について

資料3に基づき阿部経営企画局次長から説明

- 外来が好調なようだが、要因は。
 - 高額な薬を使う患者が増えていることが大きい。
- 京北病院では、経営数値に大きな変化はないか。
 - 大きな変化はない。
- 訪問看護の件数が伸びているが、看護師は何人で取り組んでいるか。
 - 常勤の看護師が6人である。

(4) 月次収支（7月まで）について

資料4に基づき阿部経営企画局次長から説明

- 経常収支が100%を切っているが、問題はないか。
 - 固定費である給与費が大きな割合を占めており、支出を簡単には減らせないので、8月に記録したような売上を続けていくことが必要である。同時に、材料費を中心に支出の抑制が必要である。
- 昨年度と比べ給与費が増えている要因は。
 - 昨年度途中から共済年金の制度変更により負担増となったためである。今年度後半からは、同条件になり、前年度との差がなくなってくる。
- 人件費比率は、全国と比較して適正か。
 - PFI事業の費用（委託料）についても、人件費が大部分を占めていることを考慮すると、高い方だ。
- 材料費比率が上昇しているが、この傾向は続いていくのか。
 - 傾向はある程度変わらないと思うが、C型肝炎の治療については、12週間の服用で完了すると言われているので、今年度後半には落ち着いてくると想定している。
- 新薬を用いた医療だけだと、人件費やその他の経費を含めると赤字か。
 - 新薬の場合でも、一定の薬価差益は得られるが、医療提供者としては、人件費等を含めて赤字となる医療まで含め、様々な医療を提供していく使命を負っている。
- 営業外費用の増減は何によるものか。
 - 企業債の償還時期によるものである。
- C型肝炎の治療が必要な患者は、どれくらいいるのか。治療は、地域の開業医で診れるものではないか。
 - 肝炎は昔は治らない、と言われていたが、新薬のおかげで、今後患者は減っていくと思われる。一方、一定数感染される方もいらっしゃる。
また、患者さんにとっては、肝臓を専門に診ている診療科のある病院で受診したいという方が多いのは事実だと思われる。一般の開業医でできない諸検査等も含めて、当病院へ依頼されることもある。新薬を使った治療で利幅は薄いものの、患者さんの要望には応えていかなければならない。
- 経常赤字を減らしていく方策は。
 - 抽象的な表現だが医者一人当りの売上を伸ばし、医業収益を上げていくことが必要。

(5) 市立病院における医療訴訟・医事紛争について
資料5に基づき長谷川担当部長から説明

(6) その他
参考資料に基づき，森理事から京都市立病院消防出張所について，高橋経営企画課長から
外来化学療法センターの運用・メディア掲載履歴・市立病院ホームページの充実について説明

3 閉会